

URBAN-REPORT

国際物流と住宅設備リフォーム・新築計画の関係について

■なぜ今、住宅設備の入荷が遅れているのか？

現在、マイホームの新築やリフォームを計画されている多くの方が、「お風呂の納期が数ヶ月先になる」「設備の価格が上がっている」という現実と直面しています。この原因は、みなさんの選択や施工会社の落ち度ではなく、世界規模で起きている海上物流の混乱と原材料不足にあります。特に2026年に入ってから、中東情勢の緊迫化によって日本のエネルギーや化学原料における輸送の大動脈である「ホルムズ海峡」の航行が極めて困難になりました。これにより、多くのコンテナ船が遠回りを余儀なくされ、日本への輸送日数が大幅に伸びています。さらに、世界的なコンテナ不足や、国内のトラックドライバー不足（物流の2026年問題）も重なり、海外から資材が届きにくい状態が続いています。

家づくりやリフォームは、人生における大きなお買い物です。この不透明な状況の中で損をせず納得のいく住まいを実現するために、いま何が起きているのかを分かりやすく解説します。

■「2026年ナフサショック」が水回り設備に与えた影響

【ナフサって何？】

ガソリンとほぼ同じ成分であることから「粗製ガソリン」とも呼ばれますが、私たちが普段使っているプラスチックや身の回りの日用品の主要な原料となるため、日本の化学産業では「石油化学のコメ」と例えられるほど重要な存在です。



【ナフサから何ができる？（主な用途）】

ナフサそのものを私たちが直接買うことはありません。しかし、化学工場で熱分解されることで「エチレン」や「プロピレン」といった基礎的な材料に姿を変え、最終的に以下のような膨大な種類の日用品になります。

○プラスチック・樹脂製品

→ ペットボトル、レジ袋、お弁当の食品容器、家電のボディ、スマホの部品、文房具

○合成繊維

→ ワイシャツ、スポーツウェア、毛布（ポリエステルやナイロンなど）

○合成ゴム

→ 自動車のタイヤ、靴底

○その他

→ シャンプーや洗剤のボトル、ペンキ・塗料、医療用品（注射器など）

このナフサの供給が滞ったことで、住宅設備メーカーの工場では部材が足りなくなり、製品が作れない状態に陥りました。もっとも深刻な影響を受けたのが「ユニットバス(お風呂)」です。お風呂は防水パンや壁パネル、床、パッキンなどに大量のプラスチック（樹脂）を使用します。

春先にはTOTOやLIXILといった主要メーカーが新規の受注をストップする事態にまで発展しました。現在は代替ルートの確保により受注自体は再開されていますが、それまでに溜まった注文が劇的に積み上がっています。そのため、通常なら1ヶ月程度で届くはずのお風呂が、現在は「2ヶ月～4ヶ月待ち」という異例の長期化が続いています。

ほかにも、以下のような設備で影響が続いています。

○給湯器・エコキュート

→ 本体は用意できても、設置に必要な塩ビ管(プラスチック製の配管)や接続部材が不足し、工事がストップするケースがあります。

○システムキッチン・洗面化粧台

→ 引き出し内部のプラスチックパーツや、木材を固める接着剤が不足しています。海外製の食洗機やタッチレス水栓などのオプションを選ぶと、コンテナ船の遅れによる影響が直撃し、さらに納期が伸びる傾向があります。

○トイレ(温水洗浄便座)

→ 一時期よりは改善ルートに乗っていますが、ノズルなどの樹脂パーツの流通次第で、特定の人気機種に遅れが出るリスクが残っています。

■現状は「物が無い」から「値上げの第二波」へ

2026年の前半は「頼みたくても物が無い」というパニック状態でしたが、夏を迎えた現在は少し局面が変わってきています。流通が少しずつ回復し「物は手に入るようになった」のですが、その代わりに「大幅な値上げ」が本格化しています。遠回りの航路による海上運賃の激増、コンテナを確保するための割増料金、そして国内の運送費上昇といったコストが、すべて製品価格に上乗せされているためです。主要メーカーの具体的な動きとして、2026年8月受注分から水回り商品を平均10%~15%、最大25%値上げすることを決定しました。また、給湯器メーカーも9月出荷分から10%~20%前後の大幅な値上げを確定させています。さらに設備本体だけでなく、リフォームに必要な配管材、壁紙を貼る接着剤、防水シート、塗料なども20%~40%以上値上がりしています。これにより、リフォーム全体の総額が、当初の予算より数万~数十万円単位で膨らんでしまうケースが相次いでいます。



■理想の住まいを諦めないために

中東情勢や国際物流が完全に元通りになるには、まだ数ヶ月から1年以上かかると予想されています。この状況下で、私たちが余計なコストを払わず、スケジュール通りに工事を進めるためには、先手のアクションが不可欠です。

① 見積書の「有効期限」を必ず確認し、早めに決断する

これまでは「見積もりをもらってから1~2ヶ月じっくり悩む」ことができたが、今はメーカーの値上げが相次いでいるため、見積書の有効期限が短く設定されるケースが増えています。期限が切れると再見積もりとなり、自動的に数万円高くなってしまうリスクがあります。

「やる」と決めたら、意思決定のスピードを少し早めることが最大の節約になります。

② 工事全体のスケジュールは「お風呂」を基準に組む

前述の通り、住宅設備の中で最も納期が長いのがユニットバス(お風呂)です。そのため、リフォームや新築の工程は「お風呂がいつ届くか」をベースに逆算して組まなければなりません。計画の際には、まずお風呂の仕様を最優先で確定させ、施工会社を通じて真っ先に発注手続きを済ませてもらいましょう。

③ 国の補助金(住宅省エネ2026キャンペーン)の予算枯渇に注意する

現在、国は省エネ性能の高いお風呂や給湯器、窓のリフォームに対して非常に手厚い補助金を出しています。しかし、これらの補助金は「国の予算上限に達した時点で、期間内であっても終了」してしまいます。製品の入荷を待っている間に予算がなくなってしまう、もらえるはずの補助金(数万~数十万円)がもらえなくなるという事態を避けるためにも、とにかく余裕を持ったスケジュールで動くことが大切です。



記：サポート課 仁科